

第1回 日韓学生つしま会議

両国の学生318名が、漂着ごみを拾って考えた3日間



久根浜で清掃活動を行う学生たち

対馬の海岸に大量に押し寄せる漂着ごみを日韓の学生が共同で回収し、海洋環境について考えようと、第1回日韓学生つしま会議「漂着ごみを拾う・考える」が5月20日から22日までの3日間開催されました。参加した日本と韓国の学生たち318名は、期間中、美津島文化会館及び美津島体育館での共同生活を通して交流を図りながら、漂着ごみ問題についての理解を深めるとともに、今後の解決へ向けて話し合いました。



ごみでいっぱい袋を一人で背負う韓国人学生

参加学生318名

今回の会議に参加したのは、韓国から181名（釜山外国語大学校132名、東亜大学校49名）と、長崎及び鹿児島県内の大学の137名の学生たちでした。

このうち釜山外大は、去年までの3年間、漂着ごみの回収を通じた交流が続けてきており、また毎年4月には、新

入生の入学説明会を対馬で行うなどなじみの深い大学です。対馬でのごみ清掃に参加するのは2回目という学生もいました。

2日間で漂着ごみ230袋を回収

学生たちがごみ回収を行ったのは、21日（日）の午前中の約2時間。場所は厳原町豆敷の西浦浜海岸と同町久根浜の2箇所で、地元住民や一般参加のボランティア128名らと共同で浜辺に打ち上げられた漁具やペットボトルなどの漂着ごみを回収し、その量は1立方メートル入りのごみ袋130袋に及びました。

また、日本の学生より一足早く来島した釜山外大の学生たちは、前日20日（土）の午前中にも、豊玉町廻地区の海岸で地元ボランティア約80名と共に海岸清掃を行い100袋のごみを回収しました。

参加した学生たちは、海岸

のごみの多さに一様に驚いた様子。「こんなにごみがあるとは思わなかった」と口々に話していました。

エキスカレーターで対馬を楽しむ

21日の午後から、学生たちは対馬の自然を巡るエキスカレーターに出発。シーカヤックやそば打ち体験、有明山登山などの6コースに分かれて対馬を体験しました。



そば打ちを体験する学生



ワークショップで発表する学生たち

国際交流を楽しむ

キャンプファイヤーやバーベキューで国際交流を深める学生たち。日本語、韓国語で話しが通じなくなった時は、英語で会話を行っていました。



仲良くなってパソコンのメールアドレスを交換する日韓の学生



豆敷の西浦浜海岸での回収作業の様子

問題解決へ向けた意見が多く出たワークショップ

イベントの最終日、22日の午前9時から、海や川の環境保全に取り組んでいる環境NGOであるJ E A N / クリーンアップ全国事務局の進行により、学生全員が参加してのワークショップ(意見交換会)が行われ、なぜ漂着ごみが発生するのか? どうすればなくなるのか? という問題に対して、両国の学生たちが意見を申し合いました。

なぜ漂着ごみが発生するのか? ワークショップでは、この

問題に対して、「少くくは大丈夫だろう」という気持ちがあるから」「自分の周りのことしか考えないから」といったごみを捨てる人のモラルの低さを指摘する意見と共に、「生活の中で、包装紙などこみになるようなものが昔に比べて増えてきたから」といった便利になった現代生活の弊害を指摘する声も出ました。

どうすればなくなるのか?

一方、この問題の解決方法としては、「環境問題に関する教育を徹底させる」「このようなイベントを年に数回、学生、ボランティア、漁業関係

者(日本、韓国、中国など)が参加して行うことで、少しでも現状を知ってもらおう」対馬を私たちが徹底的に清掃を行い世界で一番きれいな場所にして、環境美化活動をPRする」といった意見とともに、「個人のモラルの向上だけではごみは無くならない。ごみとなるものを生産している企業に処理費用を負担してもらおう体制づくりが必要」「ごみを出さない、捨てない国際的なルール作りが必要」など幅広い意見が出されました。

NGO「国際協力に携わる「非政府組織」「民間団体」